

# キャリア教育を取り入れた 3 年生特別研修の実施

渡 辺 誠 一\*

## Execution of Special Training for Third Grade Students Including Career Education

WATANABE Seiichi

キーワード：特別研修，宿泊，コンテスト，商標，キャリア教育

### 1. ま え が き

従来，長野工業高等専門学校では，1 年生および 3 年生を対象に，年度の初めに独立行政法人国立青少年教育振興機構などが運営する研修施設を利用した 1 泊 2 日の「合宿研修」を実施してきた。平成 21 年度の教務委員会において，学校行事の見直しの一環で合宿研修のあり方について検討した結果，平成 22 年度から行事名を「特別研修」と改め，1 日のみの実施に変更されることになった。

電気電子工学科では，平成 22 年度以降の特別研修の実施方法について検討した結果，宿泊を伴う研修を実施することが望ましいとの結論に達し，平成 22 年度は 4 月 16 日（金）から 17 日（土）の 1 泊 2 日の日程で実施した。しかし，特別研修の実施日は 4 月 16 日の 1 日しか確保されていないため，宿泊を伴う研修を実施するためには土曜日を利用しなければならず，課外活動を行っている学生については対外試合や練習に支障が出る可能性があった。

筆者は，特別研修を仲間づくりと今後の進路を考えるきっかけとなる重要な研修であると位置付けた。また，3 年生で問題となっている「中だるみ現象」を改善する方法として，将来の目標設定方法などを学ぶキャリア教育の実施が有効であると考えた。それらを達成するためには，ゆっくりとした研修時間を必要とすることから，宿泊を伴う研修を実施した。

本論文では，平成 23 年度に電気電子工学科が実施した特別研修に関する以下の事柄について述べる。

- (1) 特別研修の目的と実施日
- (2) 特別研修の実施内容と学生の様子
- (3) 特別研修実施後のアンケート結果

### 2. 特別研修の目的と実施日

特別研修の目的は，電気電子工学科では毎年「混合学級から専門学科へのクラス編成を機に，専門学科の学生としての自覚と各自の目標を再認識し，新しいクラスの仲間との友好を深め，今後 3 年間充実した学生生活が送れるようにする。」としている。本年度も研修目的は従来と同様の目的を掲げた。

表 1 に特別研修の実施日および参加学生数を示した。当初，研修場所ではできるだけ多くの研修時間を確保するため，貸切バスを利用した場合の移動時間が 1 時間程度である国立妙高青少年自然の家を予約していたが，同施設は 3 月 11 日に発生した東日本大震災の避難施設として利用することになったため，長野県須坂青年の家に変更した。3 月 30 日に長野県須坂青年の家を予約して，4 月 8 日に担任教員 1 名が同施設を訪問して研修の打ち合わせを行った。

本年度の特別研修の実施日は 4 月 22 日（金）となっていたが，学生の休日の負担を軽減するため，当初は前日の 21 日（木）の 16 時過ぎに学校を出発して夕方から研修を行う予定としていた。本年度前期の時間割の確定後，午後に設定されている 2 科目の授業担当教員の配慮で，授業を別の日に振り替えることで 1.5 日の研修を実施することができた。

表 1 特別研修の実施日および学生数

項目	内容
実施日	平成 23 年 4 月 21 日（木）・22 日（金）
会場	長野県須坂青年の家 （須坂市仁礼字峰の原）
対象者	電気電子工学科 3 年生
学生数	42 名（内，留学生男子 1 名，女子 9 名）
引率教員数	2 名（渡辺誠一，青木博夫）
移動手段	貸切大型バス 1 台

\* 電気電子工学科准教授

原稿受付 2011 年 5 月 20 日

### 3. 特別研修の実施内容と学生の様子

#### 3-1 スケジュール

表2に特別研修のスケジュールを示した。筆者は3年生の担任として特別研修の引率をするのは初めてであったことから、スケジュールは過去に電気電子工学科で実施した3年生の合宿研修および特別研修のスケジュールを参考に立案した。過去の研修では企業見学や史跡名所見学などを実施していたが、本年度は時間の関係でこれらを盛り込まなかった。21日の午前中は通常通りの授業を行い、各自昼食を取った後、貸切バスで出発することにした。

#### 3-2 事前指導

4月18日(月)のホームルームの時間、および4月20日(水)の授業の一部を使って研修の事前指導を行った。事前指導の内容は以下の通りである。

##### (1) 研修資料の配布

研修スケジュール、部屋割表、係分担や研修1~5で実施する内容および目的、清掃箇所および清掃方法、グループワークの班編成を記載した研修資料を配布した。係分担については、宿泊室毎にリーダー、清掃係、食保係(食事と保健を担当)の3つの係を事前に割り当てた。

##### (2) 自己紹介の内容

後述する研修1「仲間を知る(自己紹介)」において、「得意なこと・好きなこと・情熱を燃やしていること」「自分の性格」を発表できるように、事前に発表内容を考えておくよう指導した。

##### (3) パスタブリッジコンテストの内容

後述する研修2「パスタブリッジコンテスト」の内容およびルールを説明して、事前に製作する橋の構造を考えておくよう指導した。

#### 3-3 研修1「仲間を知る(自己紹介)」

研修施設に到着後、同施設の所長および指導員の同席の下で入所式を行った。その後、最初の研修として、1人3分程度を目安として自己紹介をしてもらった。

図1に自己紹介の様子を示した。自己紹介をすることによって、自己理解能力と、自分の特徴をアピールする力の向上を目指した。また、仲間の自己紹介を聴くことで、仲間の良いところを発見する機会になることから、しっかり聴講するよう指導した。学生はおおむね得意なことや自分の性格を発表していたが、発表中に「人前で発表するのは緊張する」と感想を述べていた学生が数名いた。また、終始落

表2 特別研修のスケジュール

実施日	時間	内容
4月21日 (木)	12:50	集合(学生玄関前)
	13:00	学校出発
	14:00	長野県須坂青年の家到着
	14:00-14:30	入所式(大研修室)
	14:30-17:00	研修1「仲間を知る(自己紹介)」(大研修室)
	17:00-18:00	入浴
	18:00-19:30	夕食
	19:30-22:00	研修2「パスタブリッジコンテスト」(大研修室)
	22:00-22:30	班別行動・就寝準備
	22:30	点呼、消灯、就寝
4月22日 (金)	6:30	起床
	7:00-7:20	朝の集い(ロータリー)
	7:20-7:40	清掃・身辺整理
	7:40-8:30	朝食
	8:30-10:30	研修3「進路について考える」(中研修室)
	10:30-12:00	研修4「特別講演(創造するチカラ)」(中研修室)
	12:00-13:00	昼食
	13:00-15:00	研修5「スポーツ大会」(体育館)
	15:00-15:30	退所式(中研修室)
	15:30	長野県須坂青年の家出発
16:30	学校到着・解散	



図1 自己紹介の様子

ち着かない様子で発表する学生も見られた。近年、4年生以上の学年においてはプレゼンテーションをする科目が増えているが、3年生以下では大勢の人前で発表する機会が少ないため、自己紹介の際に緊張していたと考えられる。

研修に参加した学生の中には平成23年度に編入学した外国人留学生1名が含まれていた。学生にとって国際交流の良い機会となることから、留学生には事前に母国の地図、伝統的な服や料理の写真が掲載されているプリントを作成してもらい、研修に参加した学生に配布して発表をしてもらった。

### 3-4 研修2「パスタブリッジコンテスト」

電気電子工学科では、研修において平成21年度から製作活動を取り入れており、平成21年度は「創作紙芝居の製作」、平成22年度は「タワーの製作」を行った。本年度は市販のパスタとホットボンドを使って橋を組み立て、橋に重りを付けて、どれだけの荷重に耐えられるかを競う「パスタブリッジコンテスト」を実施した。電気電子工学科の学生は構造力学や橋工学に関する知識は皆無であるが、困難な課題を仲間間で問題解決することで仲間意識を高めてもらうことを目指した。さらに、専門分野以外の技術にも興味を持ってもらう機会となることを考えた。

コンテストを実施するにあたり、3~4名のグループを12班作った。パスタブリッジを製作するために、以下の材料および工具を配布した。

- ・長さ250mm、直径1.7mmのパスタ40本
- ・カッター
- ・カッターマット
- ・はさみ
- ・ホットボンド（グルーガン）
- ・ホットボンド用グルースティック3本
- ・方眼紙

学生は、先ず方眼紙を使って橋の設計図を作成して、設計図に基づいてパスタの長さを調整しながら、ホットボンドを用いてパスタ同士を接着して橋を組み立てた。当初、橋の製作時間を約2時間、実験時間を30分としていたが、製作に時間がかかり、研修時間内に終了することができず、研修3「進路について考える」の時間全てと、研修5「スポーツ大会」の一部の時間を使って製作および実験を行った。

図3にコンテストの様子を示した。橋の中心部に重りを吊るすための棒を取り付け、棒から紐でかごを吊り下げた。重りとして、かごの中にゴルフボールを入れて、橋が壊れる手前におけるゴルフボールの個数を計測し、重量に換算して競った。その結果、優勝した班の製作した橋の耐荷重は約3.78kgであった。コンテストは、当初予定していた製作時間の約2倍の時間を要したが、学生は真剣な眼差しで製作を行っていた。また、様々な形の橋を製作しており、学生の創造性豊かなところが見られた。



図2 パスタブリッジの製作の様子



図3 パスタブリッジコンテストの様子

### 3-5 研修4「特別講演」

例年、電気電子工学科では研修期間中に卒業生による講話を実施していた。卒業生による講演は学生にとって身近で親しみやすい面があるが、4年生の学年末に実施する進路講演会など、別の機会に聴くこともできるため、本年度は社団法人長野青年会議所が実施する「出張先生事業」に応募して、同会議所から派遣された講師による特別講演を実施した。

事前に出張先生事業担当者、講師、学生代表3名による講演内容の打ち合わせを行い、講師に学生たちが今考えていることを知ってもらった。また、講演内容については、キャリア教育を意識して、技術と社会が深く結びついていることが理解できるような内容を含めた講演となるよう講師に依頼した。

図4にグループワークの様子を示した。特別講演では、講師による「創造するチカラ」と題した商標やビジョンに関する講演と、グループワークが行われた。学生は5~6名のグループを作り、従来ある製品の問題点、新たに開発した製品の優れている点、新製品のキャッチコピー（商品名）を考える創造体験のワークなどを行った。学生たちは今まで経験し

たことがなかったグループワークに戸惑っている様子も見られたが、グループ毎に討論した結果を発表する時間では楽しそうに聴き入る姿が見られた。講師は講演の最後に「ビジョンがあれば、創造できる。」と話を締めくくり、学生にエールを送っていた。

### 3-6 研修5「スポーツ大会」

当初は、体育館を使って全員でバドミントン競技をする予定であった。当日は、始めバドミントンを行っていたが、全員同時にできないことから、学生たちが考えてバスケットボール、フットサル、綱登り、ドッジボールに分かれて汗を流した。

スポーツ大会終了後、退所式が行われ、貸切バスで帰校した。

### 3-7 研修3「進路について考える」の研修後の実施

特別研修の期間中に実施できなかった研修3について、5月16日(月)のホームルームの時間を使って一部実施した。

図5に人間形成能力を把握するワークシートを示した<sup>2)</sup>。将来の進路を考えるに当たっては、自己理解が必要であることから、事前に同図のワークシートを配布して記入してもらった後、6~7名のグループで発表し合った。発表を聞いている際には、発表者の気持ちを肯定的に受け止めるよう指導した。

グループワーク中は、終始和やかな雰囲気であった。グループ内で発表後、グループリーダーが各グループで発表があった中で「夢・やってみたい仕事・興味がある仕事」について、グループを代表して発表してもらった。その結果の一部を以下に挙げる。

- ・電力会社
- ・お嫁さんをもろう
- ・模型店
- ・料理
- ・研究者
- ・原子力発電所
- ・鉄道会社
- ・学校の先生
- ・医療関係の技術者
- ・幼稚園の教諭
- ・技術者
- ・経営者(会社社長)
- ・音響関係

グループワーク終了後、仲間のお話を聞いた感想を提出させたところ、「自分の良いところなどしっかり言えていて凄かった」、「みんな自分の事をしっかり考えているんだと思った」、「しっかりと目的を持って学校に来たんだと思った」、「色々な考えが聞けて自分の考えが広がったと思う」などの感想が寄せられた。これらの感想から、今回のワークは学生の自己理解をする能力を高め、進路について意識するのに一定の効果があったと考えられる。



図4 グループワークの様子



図5 スポーツ大会の様子

ワーク1：人間形成能力(自他の理解能力)

番号 氏名

課題1：今までのあなたはどのような人でしたか。振り返って書いてみましょう。自分自身を見つめ、自分はどのような人間か考えてみましょう。また、自己理解の上で将来の進路を考えてみましょう。

高校に入学した理由	
自分の役割 (係・委員会・行事・家での役割)	
高校生活の主な出来事・心に残る思い出・嬉しかったこと	
私の得意なこと 頑張ってきたこと	
夢 やってみたい仕事 興味があること	
私が思っている自分の良いところ くせ	
友達が教えてくれた 私の良いところ	
家族や先生などの大人から良く言われること	

課題2：これからこうしたい、こうなりたいと思うことを書いてみましょう。

課題3：仲間のお話を聞いて感じたことを書いてみましょう。

図6 人間形成能力を把握するワークシート<sup>2)</sup>

#### 4. 特別研修実施後のアンケート結果

特別研修終了後に、参加した学生に対して、特別研修全体の感想、研修内容、および研修を受けての自己評価に関する記名式アンケートを実施した。アンケートは5月2日に実施して、回答者数は受講した学生42名中39名（回収率92.9%）であった。アンケート項目および分析結果は以下の通りである。

##### 4-1 研修全体に関する質問

研修全体に関する質問の結果は以下の5項目である。特別研修の期間、研修の実施時期、バスの乗車時間、研修施設は概ね良好であるという結果となった。また、研修の期間については日帰りが良いという意見は無かった。

##### (1) 特別研修の期間（1.5日、1泊2日）はどうか

日帰りが良い	0名(0%)
ちょうど良い	29名(74.4%)
2泊3日以上が良い	10名(25.6%)

##### (2) 特別研修の実施時期（4月21・22日）はどうか

始業式直後が良い	0名(0%)
もう1週間早い方が良い	8名(20.5%)
ちょうど良い	28名(71.8%)
もう1週間遅い方が良い	2名(5.1%)
5月ゴールデンウィーク明けが良い	1名(2.6%)
その他の時期が良い	0名(0%)

##### (3) バスの乗車時間（約1時間）はどうか

短い	0名(0%)
やや短い	7名(17.9%)
ちょうど良い	29名(74.4%)
やや長い	3名(7.7%)
長い	0名(0%)

##### (4) 研修施設はどうか

良い	10名(25.6%)
やや良い	12名(30.8%)
どちらとも言えない	13名(33.3%)
やや悪い	3名(7.7%)
悪い	1名(2.6%)

##### (5) 研修施設の食事はどうか

良い	8名(20.5%)
やや良い	16名(41.0%)
どちらとも言えない	13名(33.3%)
やや悪い	1名(2.6%)
悪い	1名(2.6%)

##### 4-2 研修内容に関する質問

研修内容に関する質問の結果は以下の5項目である。自己紹介とパスタブリッジコンテストについては、内容が良いと回答した学生数は8割以上との回答が得られた。特別講演会およびスポーツ大会については内容が良いと回答した学生数は5割程度にとどまった。特別講演会については、講演が時間不足で急ぎ足であったこと、スポーツ大会についてはレクリエーション的な内容であったため内容が普通であると感じた学生が多かったと考えられる。

研修全体としての内容については9割以上の学生が満足したと回答が得られ、一定の評価が得られていることがわかった。

##### (1) 研修1「仲間を知る（自己紹介）」の内容はどうか

良い	17名(43.6%)
やや良い	16名(41.0%)
どちらとも言えない	6名(15.4%)
やや悪い	0名(0%)
悪い	0名(0%)

##### (2) 研修2「ものづくりコンテスト（パスタブリッジコンテスト）」の内容はどうか

良い	14名(35.9%)
やや良い	21名(53.8%)
どちらとも言えない	4名(10.3%)
やや悪い	0名(0%)
悪い	0名(0%)

##### (3) 研修4「特別講演会（創造するチカラ）」の内容はどうか

良い	9名(23.1%)
やや良い	11名(28.2%)
どちらとも言えない	16名(41.0%)
やや悪い	3名(7.7%)
悪い	0名(0%)

##### (4) 研修5「スポーツ大会」の内容はどうか

良い	10名(25.6%)
やや良い	15名(38.5%)
どちらとも言えない	13名(33.3%)
やや悪い	1名(2.6%)
悪い	0名(0%)

##### (5) 総合的に考えて、研修内容に満足出来ましたか

満足	16名(41.0%)
やや満足	20名(51.3%)
どちらとも言えない	3名(7.7%)
やや不満	0名(0%)
不満	0名(0%)

## 4-3 自己評価に関する質問

自己評価に関する質問の結果は以下の12項目である。(11)の友達が出来たかについては、ほぼ全員の学生がおおよそ出来たと回答した。(7)の係の役割については、役割が無かった学生もいたため、おおむね出来たと回答した学生数は7割未満となった。

(3)～(5)の特別講演については、おおむね出来たと回答した学生数は7割以上となった。技術と商標・ネーミングが深くかかわっていることが理解できたと考えられる。また、グループワークを通じて、キャリア教育に欠かすことが出来ない目標設定の大切さが理解できたと考えられる。

(1)の自己紹介については、おおむね出来たと回答した学生数は5割程度にとどまった。学生にとって、大勢の人前で話す機会があまりない中で、今回の研修は良い経験になったと考えられる。

他の項目については、おおむね出来たと回答した学生数は7割以上となり、学生は研修内容についてほぼ達成できたと考えられる。

## (1) 研修1で自己紹介がしっかり出来ましたか

出来た	8名(20.5%)
やや出来た	12名(30.8%)
どちらとも言えない	13名(33.3%)
やや出来なかった	6名(15.4%)
出来なかった	0名(0%)

## (2) 研修2でパスタブリッジコンテストを積極的に行うことが出来ましたか

出来た	18名(46.2%)
やや出来た	17名(43.6%)
どちらとも言えない	2名(5.1%)
やや出来なかった	2名(5.1%)
出来なかった	0名(0%)

## (3) 研修4で講演をしっかりと聞くことが出来ましたか(合計100.1%)

出来た	9名(23.1%)
やや出来た	20名(51.3%)
どちらとも言えない	6名(15.4%)
やや出来なかった	3名(7.7%)
出来なかった	1名(2.6%)

## (4) 研修4でグループワークを積極的に行うことが出来ましたか

出来た	8名(20.5%)
やや出来た	20名(51.3%)
どちらとも言えない	11名(28.2%)
やや出来なかった	0名(0%)
出来なかった	0名(0%)

## (5) 研修4で技術と商標・ネーミングが深くかかわっていることが理解出来ましたか(合計99.9%)

出来た	9名(23.1%)
やや出来た	21名(53.8%)
どちらとも言えない	7名(17.9%)
やや出来なかった	2名(5.1%)
出来なかった	0名(0%)

## (6) 研修5でスポーツ大会を積極的に行うことが出来ましたか

出来た	12名(30.8%)
やや出来た	19名(48.7%)
どちらとも言えない	7名(17.9%)
やや出来なかった	0名(0%)
出来なかった	1名(2.6%)

## (7) 与えられた係の役割について行うことが出来ましたか

出来た	11名(28.2%)
やや出来た	16名(41.0%)
どちらとも言えない	12名(30.8%)
やや出来なかった	0名(0%)
出来なかった	0名(0%)

## (8) 与えられた清掃分担場所の清掃を行うことが出来ましたか

出来た	20名(51.3%)
やや出来た	14名(35.9%)
どちらとも言えない	5名(12.8%)
やや出来なかった	0名(0%)
出来なかった	0名(0%)

## (9) 生活の規則(集合時間を守る, ゴミ処理など)を守ることが出来ましたか(合計100.1%)

出来た	18名(46.2%)
やや出来た	16名(41.0%)
どちらとも言えない	4名(10.3%)
やや出来なかった	1名(2.6%)
出来なかった	0名(0%)

## (10) しっかり挨拶が出来ましたか

出来た	17名(43.6%)
やや出来た	16名(41.0%)
どちらとも言えない	5名(12.8%)
やや出来なかった	0名(0%)
出来なかった	1名(2.6%)

## (11) 友達は出来ましたか

出来た	23名(59.0%)
やや出来た	13名(33.3%)
どちらとも言えない	3名(7.7%)
やや出来なかった	0名(0%)
出来なかった	0名(0%)

(12) 特別研修の目的を達成することが出来ましたか

出来た	16名(41.0%)
やや出来た	17名(43.6%)
どちらとも言えない	6名(15.4%)
やや出来なかった	0名(0%)
出来なかった	0名(0%)

4-4 感想および改善した方が良い点

自由記述として、特別研修の感想と、改善をした方が良い点について書いてもらった。感想としては、「楽しかった」が多かったが、「友達が増えた」、「宿泊して良かった」も多くあったことから、研修目的の中にある「新しいクラスの仲間との友好を深め」については達成できたと考えられる。

研修目的の中にある「専門学科の学生としての自覚と各自の目標を再認識」については、パスタブリッジコンテストの時間がかかり、研修3「進路について考える」が実施することができなかつたため、キャリア教育に相当する研修は5割程度しか実施することができなかつた。実施できなかつた研修については、その後のホームルームにおいて一部実施した結果、3-7節で述べた学生から得られた感想より、進路について目標設定するきっかけを提供することが出来たと考えられる。

(1) 特別研修の感想

- ・ 楽しくできた。楽しかった。(12名)
- ・ 面倒なのもあったけど楽しかった。
- ・ 楽しかったので良かったと思います。
- ・ 学習と運動とどちらも楽しかったです。
- ・ 研修は楽しかったけど大変だった。
- ・ なかなか良かったと思う。
- ・ 良い思い出になった。
- ・ 研修を意識して出来た。
- ・ 充実していました。
- ・ 1.5日ではあるが密の高い旅行だった。
- ・ 講演はためになった。
- ・ 商標登録のことについて理解することが出来た。
- ・ パスタブリッジが思ったより面白かった。
- ・ パスタの橋は何とか完成して良かった。
- ・ 友達が増えたと思う。新しい友達が出来て良かった。(3名)
- ・ 話したことがない人と話せて良かった。
- ・ 新しいクラスになって知らない人と友達になれて良かった。
- ・ 新しいクラスでまだ話したことがない人と話せて、仲良くなれたので良かったと思います。

- ・ いろいろな人と話せて良かった。
- ・ たくさんの人と話せて良かった。
- ・ 一日クラスの仲間と過ごせて良かった。
- ・ クラスが変わり、なじめないと思ったが、色々話できて多少なじめたと思う。
- ・ クラスの仲が深まった気がする。
- ・ クラスの仲間との親交が深まって良かった。
- ・ パスタブリッジ等で友好を深めることが出来て良かった。
- ・ 電気科の仲間と一日半一緒にいることで、仲間と話す機会を得ることができた。
- ・ 今まで違うクラスだった人たちのことを知ることが出来たし、色々な人と関わったり話したりすることが出来て良かった。
- ・ 友達が仲良くなってうれしかったです。でも、短い時間だけ寝るから疲れていた。
- ・ 寝る時間が遅くなってしまって眠かった。(2名)
- ・ もう少し寝たかった。
- ・ 自分の新たな一面を見つけられてよかった。
- ・ 研修を通じて仲間の夢や思いにふれあえた。
- ・ クラスの人たちの自己紹介が聞いて良かった。
- ・ 自己紹介を設けたのは、まだあまり分からない部分も知れたので良かったと思う。
- ・ 宿泊がいいと思う。
- ・ 夜に交流して、互いに関する理解が深まって良かったと思う。
- ・ 夜が一番会話が弾むので、泊まりがいいと思う。
- ・ 泊まりがけで研修することで、クラスのみならず多く関わる良い機会だったと思う。なかなか話したりすることがなかった人とも話すことが出来て良かった。
- ・ 多くの人と話すことができて、とても良かった。泊まりでなくては話す機会も減ってしまう。これからも続けてほしい。
- ・ もっと長い期間研修をしても良かった。
- ・ とても楽しく、新しいクラスのメンバーをちゃんと知ることが出来た。こういう機会は絶対必要だと思うし、もっと長くしても良いと思う。
- ・ このままで良いと思う。泊まりは2泊3日が良い。
- ・ これからも続けてほしい。
- ・ こういう機会が今後またあればいいと思う。
- ・ 長いようで短い2日間だった。
- ・ このような特別研修がいつかまた行われればいいと思う。
- ・ パリッとした気持ちでできる宿泊施設だった。
- ・ 設備はしっかりしていて良かったと思う。

## (2) 改善した方が良い点

- ・ テレビとかあった方が楽しかった。
- ・ 研修施設へ向かう、あの曲がり具合の道は酔う。
- ・ 風呂が狭かったです。
- ・ スリッパが小さいと思う。
- ・ 研修の間が短くてきつかった。
- ・ ご飯の用意はみんなですべきだと思う。あの係りの人数で 10 分間は不可能。
- ・ パスタの時間が計画通りにいかなかったのは良くなかった。
- ・ 製作系の研修はもう少し時間を作っておいた方が良いと思う。(2名)
- ・ 内容が全部できていなかったり、時間がかかったりしていたので、そこを上手く改善できたらいいんじゃないかと思った。
- ・ スポーツ大会が、スポーツ大会になっていなかったと思いました。
- ・ 体育館が狭くていろいろ大変だった。もう少し何とかならないか。
- ・ 外でも運動できるようにしてほしい。
- ・ 外で、みんなで遊びたい。
- ・ ハイキングがしたい。
- ・ もっと遊びを増やしてほしい。
- ・ ソフトバンクの電波が入らなかった。Wi-Fi が欲しかった。
- ・ もう少し遠くに行きたい。

## 5. あとがき

本論文では、電気電子工学科が平成 23 年 4 月 21 日（木）から 22 日（金）にかけて実施した 3 年生特別研修の、以下の事柄について述べた。

### (1) 特別研修の目的と実施日

研修目的は「混合学級から専門学科へのクラス編成を機に、専門学科の学生としての自覚と各自の目標を再認識し、新しいクラスの仲間との友好を深め、今後 3 年間充実した学生生活を送れるようにする。」とした。研修日は、実施日として設定されていた 4 月 21 日の前日の午後の授業を別の日に振り替える

ことで、1.5 日の研修を実施することができた。

### (2) 特別研修の実施内容と学生の様子

研修では、仲間作りのきっかけとなるような研修として自己紹介、パスタブリッジコンテスト、スポーツ大会を実施した。また、将来の目標設定方法などを学ぶキャリア教育の一環として、長野青年会議所「出張先生事業」の講師による特別講演を実施した。当初、キャリア教育の一環として計画した進路について考えるワークについては、パスタブリッジコンテストの時間がかかり実施できなかったため、特別研修終了後のホームルームの時間に実施した。

### (3) 特別研修実施後のアンケート結果

特別研修終了後のホームルームの時間に、参加した学生に対して研修全体の感想、研修内容、および研修を受けての自己評価に関する記名式アンケートを実施した。その結果、特別研修の期間、研修の実施時期、バスの乗車時間、研修施設については概ね良好である結果が得られた。研修全体としての内容については 9 割以上の学生が満足したと回答が得られた。また、研修の目的に対して 8 割以上の学生がおおむね達成できたと回答が得られた。

宿泊を伴う研修は教員にとって負担がかかるものの、学生にとって充実した研修であったと考えられる。キャリア教育については、今後はホームルームなどを活用して継続して実施したい。

## 謝 辞

特別研修を実施するにあたり、研修内容の検討および学生を引率していただいた青木博夫教授に感謝する次第である。また、長野県須坂青年の家の指定管理者である株式会社フードサービスシンの皆様、特別講演を実施していただいた長野青年会議所の皆様に感謝する次第である。

## 参 考 文 献

- 1) 泉聡志監修：パスタで橋を作ろう，理科教育ニュース，少年写真新聞社（2008.8）
- 2) 日本進路指導協会編：「キャリア教育」Q&A ワーク 中学校編，明治図書，pp.38-39（2008.8）